

旧日向別邸保存会

# ヒントは桂離宮

## コンサート！ 部屋命名の謎 講演で迫る

熱海市昭和町の起雲閣で5日、「ブルーノ・タウト謎解きコンサート」(旧日向別邸保存会主催)が開かれた。同市在住のバイオリニスト沼田園子さんと、ピアニストの蓼沼明美さんによる演奏に加え、同保存会の会員でもある太田隆士駿河台大教授が講演を行い、旧日向別邸「同市春日町」の地下にある三つの部屋の「命名の謎」に迫った。

同邸の地下室はドイツ出身の建築家ブルーノ・タウトが設計し、社交室(ピンボン室)、洋風居間、和室それぞれに「ベートルベン」「モーツァルト」「バッハ」と名が付けられている。沼田さんらはベートルベンとバッハのソナタに加え、モーツァルトの影響を受け、なおかつタウトと同



豊かな音色を響かせて来場者を引き付ける沼田さん(左)と蓼沼さん一起雲閣

都の桂離宮」とし、タウトの桂離宮論を紹介。建築にとつて大切なことは「写しているが、この三つ

の要素がバランスよく配置されていること、三様の目的の統一こそが桂離宮の魅力」と語った上で、「タウトが桂離宮で感じた『日常生活』は旧日向別邸のピンボン室で、作曲家でいえばベートルベン、『優雅な林泉』はワインレッドで表されたモーツァルトの洋風の居間、『哲学的風格』も必要だと述べて桂離宮に見いだした要素は旧日向別邸の和室そのものであ

の目的の統一こそが桂離宮の魅力」と語った上で、「タウトが桂離宮で感じた『日常生活』は旧日向別邸のピンボン室で、作曲家でいえばベートルベン、『優雅な林泉』はワインレッドで表されたモーツァルトの洋風の居間、『哲学的風格』も必要だと述べて桂離宮に見いだした要素は旧日向別邸の和室そのものであり、音楽に例えればバッハ」と指摘した。

さらに「旧日向別邸は奇跡的に保存されている。誇るべき財産として皆さんと共に保存活動を続けていきたい」と語った。この日、受付には同保存会が旧日向別邸の維持保存のための基金箱を置き、浄財を募った。

じ時代の作曲家シュトラウスのソナタを演奏し、市内外から集まった約120人の来場者を引き付けた。

演奏に先立ち、太田教授が「タウトの旧日向別邸と音楽」と題して講演した。「三つの部屋の命名のヒントになるのはタウトが『泣きたくなるほど美しい』と絶賛した京